

2015年1月29日

関係各位

野村ホールディングス株式会社
コード番号8604
東証・名証第一部

野村ホールディングス、2015年3月期第3四半期の連結決算を発表

野村ホールディングス株式会社(グループCEO:永井浩二)は本日、2015年3月期第3四半期(2014年10-12月、以下「当四半期」)の連結決算を発表した。

当四半期の収益合計(金融費用控除後)は4,250億円、税前利益は1,161億円、同社株主に帰属する当期純利益は700億円であった。

同社のグループCEOの永井浩二は、以下のとおりコメントした。

「第3四半期は、前四半期比、前年同期比ともに増収増益を達成した。また、第1-3四半期累計では、税前利益と当期純利益が前年第1-3四半期に次ぐ高水準となった。

第3四半期の営業部門は税前利益が6四半期ぶりの高水準となり、グループ全体の利益を牽引した。また、ビジネスモデルの変革に着手して以来、投資一任純増や保険販売額が最高の水準となり、顧客資産残高は初めて100兆円を突破した。アセット・マネジメント部門は、投信への資金流入が前期に引き続き増加したことにより、運用資産残高は過去最高をさらに更新し、税前利益は2008年3月期第2四半期以来の最高益を達成した。ホールセール部門は、グローバル・マーケットが好調な日本およびアジア、ならびに各地域のインベストメント・バンキングが収益を支えたものの、欧州・米州のフィクスト・インカムが低調となり、前四半期比で減収減益となった。

当社は今後も、厳しい環境下でも利益を確保できる体制作りに努め、スローガン『Vision C&C』の下、お客様のニーズや社会の変化をチャンスと捉え、自らのビジネスを果敢に変革していくことで、『アジアに立脚したグローバル金融サービス・グループ』の揺るぎない地位を確立していく。」

当四半期決算のポイント

- 当四半期の収益は4,250億円、税前利益は1,161億円、当期純利益は700億円。前四半期比、前年同期比ともに増収増益であった。
- 営業部門、アセット・マネジメント部門ともに増収増益の好決算であったが、欧州・米州フィクスト・インカム不振により、ホールセール部門の収益性が大幅に悪化した。
- 自社およびカウンター・パーティのクレジット・スプレッドの変化に起因する利益89億円、保有する足利ホールディングス株式の評価益99億円、そのほか関連会社が保有する有価証券の評価益なども全社利益を押し上げた。
- スtock・オプションの行使に伴い交付する株式への充当と、資本効率の向上および機動的かつ柔軟な資本政策の実施を可能とするため、本日、自己株式の取得（取得株数上限4,000万株、取得総額上限300億円）を決議した。
- 2014年12月末における速報値（バーゼル3ベース）で、連結自己資本規制比率は14.3%、Tier 1比率は12.5%。2014年12月末現在の貸借対照表の資産合計は44.1兆円、株主資本は2.7兆円、グロス・レバレッジは16.2倍、調整後レバレッジは10.5倍である。

	2015年3月期 第3四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 （金融費用控除後）	4,250億円	+14%	+12%
税前利益	1,161億円	+57%	+34%
当期純利益	700億円	+32%	+45%

当四半期の各部門の状況

● 営業部門

当四半期の収益合計（金融費用控除後）は1,288億円、税前利益は505億円。税前利益は2014年3月期第1四半期に次ぐ高水準である。

日銀の追加金融緩和等を受けた株価の上昇や、プライマリー案件の増加を背景に、株式が好調であった。

ヒアリングを通じて顧客ニーズに合わせた資産設計やライフプラン・サービスの提案を継続した結果、投資一任純増や保険販売額はビジネスモデルの変革に着手して以来最高の水準となった。顧客資産残高は過去最高の104.8兆円に達し、当四半期のストック収入は年率換算で657億円と、2016年3月期の目標（696億円）に迫る水準まで進捗している。

	2015年3月期 第3四半期（10億円）	前四半期比	前年同期比
収益合計 （金融費用控除後）	128.8	+9%	+1%
税前利益	50.5	+30%	+6%

● アセット・マネジメント部門

アセット・マネジメント部門の収益合計は234億円、税前利益は93億円となった。税前利益は2008年3月期第2四半期以降の最高益である。投資一任向け商品などに資金が流入し、市場要因も追い風となり、12月末の運用資産残高は過去最高の37.7兆円となった。

投信ビジネスでは、インカムゲイン等を追求する投信や、投資一任向け投信を中心に資金が流入した。ファンドラップやSMA専用投信の残高が大きく伸びたほか、私募投信の販売も引き続き好調である。

投資顧問ビジネスでは、欧州統一規格UCITS※適合ファンドを通じて、海外のビジネスが拡大している。欧州域外では、アジアのリテール投資家への販売に加えて、チリやメキシコの年金基金から新規に運用を受託するなど、地域、顧客層ともに販路が拡大した。

※ 欧州委員会指令に定義される譲渡可能証券の集団投資事業（Undertakings for Collective Investment in Transferable Securities）、欧州連合における投資信託の統一基準。

	2015年3月期 第3四半期(10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	23.4	+8%	+10%
税前利益	9.3	+20%	+5%

● ホールセール部門

ホールセール部門の収益は1,789億円、税前利益は5億円、前四半期比で減収減益となった。

- グローバル・マーケッツは、日本とアジアが好調であった。特にアジアは2009年4月以降で最高の四半期収益を計上するなど、注力するエマージング関連ビジネスを中心に顧客フランチャイズが着実に拡大している。
- ✓ フィクスト・インカムは、日本の金利とアジアの為替は好調であったが、欧州・米州で金利の急激な低下やボラティリティの急上昇を受けてトレーディング環境が悪化し、大幅な減収となった。
- ✓ エクイティでは、グローバルに市場売買高が回復し、キャッシュ・ビジネスが好調であった。
- インベストメント・バンキングは、日本、海外ともに前期比、前年同期比で増収となった。好調なECMビジネスに加え、M&A収益がグローバルに回復した。日本では、大型IPO案件やCB案件等を獲得し、リーグテーブルで高いシェアを維持している。海外では、日本企業が絡まない海外地域間のM&A案件や、大型のファイナンス案件など、高プロファイルな案件を多数獲得した。

	2015年3月期 第3四半期(10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	178.9	-6%	-5%
税前利益	0.5	-98%	-98%

以上

詳細につきましては、当社ホームページ(<http://www.nomuraholdings.com/jp/investor/>)に掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。

本資料は、米国会計基準による2015年3月期第3四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料は、2015年1月29日現在のデータに基づき作成されております。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。